

令和2年度北海道ブロックにおける 災害廃棄物処理計画策定支援モデル事業業務 要約版

【業務目的】

北海道内の市町村では、災害廃棄物処理計画の策定率が低い。これを踏まえ、上川、空知、渡島総合振興局管内の各自治体(全市町村の他、廃棄物処理広域連合、一部事務組合等を含む)を対象に、令和2年度内に計画骨子案を作成することを目的とした支援を行うことが本業務の目的である。

【業務項目】

- ①勉強会の開催:各振興局ごとに1回
- ②ワークショップの開催:各振興局ごとに3回
- ③市町村ごとの災害廃棄物処理計画骨子(案)の作成支援
- ④自治体からの相談対応
- ⑤ワークシート及び災害廃棄物処理計画策定自治体支援マニュアルの改訂
- ⑥会場の確保等
- ⑦リモートについて:勉強会・ワークショップのリモート併催
- ⑧モデル事業実施結果の報告:ブロック協議会への報告

【勉強会の開催】

各総合振興局所在地において、11月の下旬に実施した。

各自治体等の災害廃棄物担当の管理職向けに処理計画の基礎的事項及びその策定の必要性について説明を行うとともに、近年では、想定外の災害が多く発生していることや、北海道においても災害の危険性が高まっていることを示す内容とした。また、ワークショップの開催内容及びワークシートの概要について説明した。



【ワークショップの開催】

勉強会と同様に各総合振興局所在地において、それぞれ3回実施した。

- 空知総合振興局:11/26、2/3、2/25
- 渡島総合振興局:11/24、2/4、2/15
- 上川総合振興局:11/18、2/5、2/26

また、各回における課題は右表の通りとした。各回とも、課題に応じた講義を行うとともに、これに対応したワークシートの作成方法について説明を行った。また、参加した自治体等間で、各課題について計画に記載すべき内容について意見交換を行った。

災害廃棄物処理に関する課題		テーマとするWSの回数
① 対象災害と廃棄物量の推計	第1回 「処理計画の基礎的な事項」	
② 初動		
③ 仮置場の設置・運営・管理		
④ 行政や民間との連携、情報収集・集約・発信	第2回 「自治体内の課題」	
⑤ 片づけごみ等の排出		
⑥ 被災自治体支援体制の確保		
⑦ 広域処理を含む処理先の確保、処理困難物への対応	第3回 「連携等の広域的課題」	
⑧ 廃棄物処理施設の被災		
⑨ 停電への対応		
⑩ その他(補助金等)		

令和2年度北海道ブロックにおける 災害廃棄物処理計画策定支援モデル事業業務 要約版

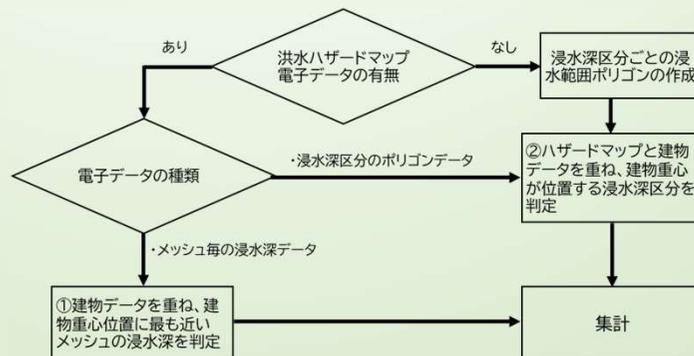
【市町村ごとの災害廃棄物処理計画骨子(案)の作成支援】

ワークシートや計画策定に必要な情報を提供し、その進捗管理及び内容の照査を行うとともに、修正や助言を行った。

【自治体からの相談対応】

各自治体等から、計画策定にあたっての相談事項について、適宜回答した。多くは、水害の被害想定に関する相談であり、洪水ハザードマップを基に洪水被害に関する被害想定数値(案)を作成するなどの支援を行った。

また、ごみ処理広域化対策協議会の自治体からの要請に応じ、災害廃棄物処理の事例紹介や計画策定の質疑応答等の勉強会を行った。



水害による建物被害の試算方法フロー



作成した重ね合わせ図の例

【ワークシート及び災害廃棄物処理計画策定自治体支援マニュアルの改訂】

主要なものとしては、次のとおりである。

- 災害廃棄物対策指針 技術資料の令和2年3月の更新に併せて算定の基礎数値、出典等を改訂した。
- 水害の被害が大きいと考えられる自治体についても種類別発生量を算定できるようにした。
- 災害及び災害廃棄物に関する知見が乏しい者が読むことを想定して、新規の用語の解説、災害種類ごとの災害廃棄物の特徴などについて、順序変更・追加等を行った。

【会場の確保等】

新型コロナ感染防止対策のため、広い会場を確保するとともに右のような掲示を行った。

【リモートについて】

新型コロナ感染防止対策のため、勉強会、ワークショップへのリモート参加を支援した。

新型コロナウイルス感染防止のためのお願い

- マスクの常時着用をお願いします。
- 30分に1回以上の換気をさせていただきます。
- 休憩時間でもソーシャルディスタンスを保ちましょう。
- こまめに消毒・手洗いをしましょう。

少しでも体調に異変を感じたら、主催者にお申し出ください。

【モデル事業実施結果の報告】

本業務の実施概要について、大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第10回)で報告を行った。